

# 第74期 事業報告書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで



フクビ化学工業株式会社

証券コード：7871



## フクビ化学の次のステージへ向かうために。 第二次中期経営計画がスタート。

株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
第一次中期経営計画において一定の成果が見え始めたフクビ化学。次に進むべき道はどこか。八木社長に第74期の経営戦略および今後の方向性について聞きました。

代表取締役社長 **八木 誠一郎**

**開発型メーカーとしての飛躍準備を整えた第74期。  
見え始めた実質的な成果とともに  
次の一步を踏み出す。**

**Q** 第74期のフクビ化学は  
どのような一年でしたか。

**A** 第74期は、フクビ化学の第一次中期経営計画の最終年度でした。第72期、第73期と同様に課題を着実に実施してまいりました。残念ながら、業績結果を伴うことはできませんでしたが、開発型メーカーとして飛躍するための構造改革が進み、実質的な成果は挙げられたと認識しております。

しかしながら、改正建築基準法の厳格化による日本の建築市場が長期的な構造変化に入ったことや米国サブプライムローン問題に端を発する世界経済の逆風が重なるなど、いま、フクビ化学は経営環境の大きな変化の中にいます。

そのような中、開発型メーカーとしてフクビ化学が成長していくためには、独自の技術と絶対主義で未来を拓くことが最重要課題となります。第75期から始まる第二次中期経営計画では、フクビ化学の採るべき方向・方策をしっかりと反映させ、全力で取り組んでまいります。

(単位:百万円)

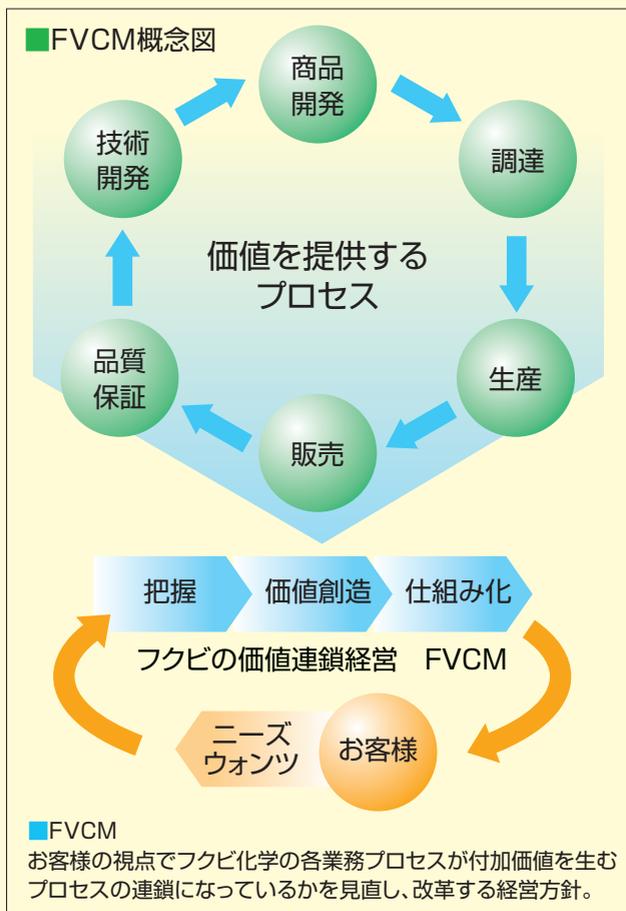
項目	73期		74期		
	計画	実績	計画	実績	
売上	連結	—	52,860	—	48,011
	単体	45,000	44,509	45,500	41,366
経常利益	連結	—	2,403	—	1,734
	単体	2,477	1,371	3,224	1,072
R O S	連結	—	4.5%	—	3.6%
	単体	5.5%	3.1%	7.1%	2.5%

※計画数値は第一次中期計画の数値です。

**Q** 第二次中期経営計画の骨子について  
教えてください。

**A** フクビ化学の存在意義は、開発型メーカーであり続けることです。他にはない技術、これをしっかりと磨いていきたいと考えています。第二次中期経営計画では、第一次中期経営計画より取り組んでおります「フクビ化学の価値連鎖経営(以下FVCM)」の本丸、新生産管理システムの構築に着手します。このシステムの完成は、平成20年中を予定しており、フクビ化学の「絶対主義」=「品質」「スピード」「コスト」を実行するものとして期待しています。

私は、三步先ではなく、半歩先の開発をしていきたいと考えています。社会をしっかりと予見していきながら半歩先の開発をしていけば、その先に次の開発があり、また次の開発に進んでいけるのです。そのための体制づくりがFVCMであり、根底を支えるのが新生産管理システムとなります。



## 第二次中期経営計画は、構造改革の本丸に着手。 新生産管理システムで フクビ化学の付加価値を増大。

**Q** 新生産管理システムを導入する理由は。

**A** 新生産管理システムでは、フクビ化学の変種・変量・オンデマンド生産体制を実現させていきます。

お客様のニーズは、多様化という言葉ではすまされないほど、お客様ごとに異なっています。そのニーズを的確に汲み取り、適切な商品としてご提案するためには、お客様にとって同じベクトルで取り組めるパートナー企業である必要があります。

パートナーであるためには、コスト訴求力だけではなく、フクビ化学の持っている品質を究めていかなければなりません。そのためには生産の仕組みがやはり変わらなければならないのです。

新生産管理システムでは、リードタイムが明確になるため、お客様に対しての納期回答が確約できるようになります。そうすると材料の調達の仕方から変えることができ、多様な波及効果を生むことにもつながります。

新生産管理システムというフクビ化学の絶対主義の具体化を通して会社としての対応力をつけ、技術・製品開発力の強化を図っていくことこそが、開発型メーカーとして会社の大きな成長を促す好機になると私は確信しています。

**Q** 開発メーカーとしての新たな取り組みは。

**A** 本年4月に未来創造解析センターを立ち上げました。従来、住宅部材の遮音性などの基準は公的機関で検査・解析されています。

しかしフクビ化学が、自分たちの基準を持ち、自信を持って商



品提案できるメーカーであるためには、技術・素材の分析を能動的に行っていくべきです。

原料メーカーから提案されたものをただ使うのではなく、自分たちなりに分析すれば何か新しい発見があるかもしれない。そうすれば、夢のある技術開発がさらに進むかもしれません。

開発はフクビ化学にとっての生命線です。未来創造解析センターへの設備投資は今後も積極的に行ってまいります。社内の開発マインドを上手にコントロールすることで、技術を磨くための知恵の蓄積を深め、つくるための開発、売するための開発にしっかりと取り組むことで、次の成長にかけていきたいと考えております。

**リフォーム分野の営業強化でさらなる利益確保を目指し、開発型メーカーとしての経常利益向上により企業成長を図る。**

**Q** 今後の展開についてのお考えは？

**A** 今後の事業における注力課題については、住宅のリフォーム分野に本格的に取り組んでまいります。

当社の主なマーケットである新築住宅需要は縮小均衡にありますが、建築市場では、より超寿命化の住宅にするための取り組みが進んでいます。例えば100年もつ家をつくるのであれば、定期的にはリフォームしなければなりません。そうすると新築段階からリフォームコンセプトをはっきりさせておくことも重要です。

当社の異形押出技術の特化させた資材開発など住宅のリフォーム分野においてフクビ化学が取り組める余地は十分にあります。また新たな開発需要が生まれることで確かな利益確保を図ることができます。

住宅関連を主とする建築資材事業で収益を確保するとともに、今後成長が見込まれる新規分野への事業参入や事業拡大も積極的に行うことで開発型メーカーとしてのさらなる飛躍を目指してまいります。

**Q** 最後に総括をお願いいたします。

**A** 第74期は、フクビ化学の創業55周年でもありました。売掛金や過去の負債を片付ける資産重視の経営を徹底し、次の飛躍にむけて足元を固めるには順調な滑り出しができたと判断しています。

第一次中期経営計画に盛り込んだ売上高に対する経常利益率(ROS)7%成長は未達ではありましたが、第二次中期経営計画では、開発行為を徹底的に強めることで安定的に収益を計上できる企業体質を構築してまいりたいと思います。

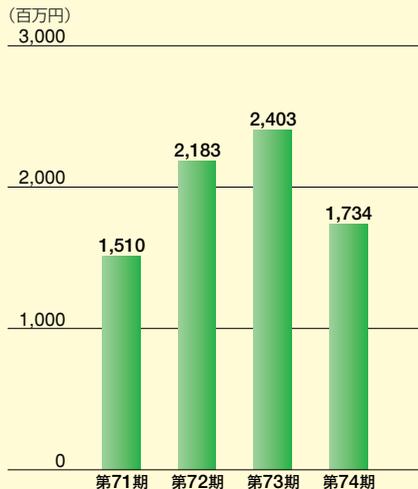
株主の皆様には引き続き、フクビ化学の実質的な利益を評価していただくとともに、長期的な戦略の狙いや効果、潜在的な企業成長力をバランスよく見ていただければと思います。そしてフクビ化学が株主や投資家の皆様のご期待に添える会社へと発展させていきたいと思っております。

# 財務ハイライト Financial Highlights

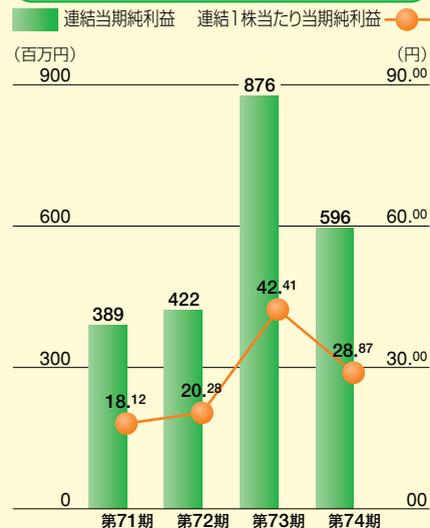
## 連結売上高



## 連結経常利益



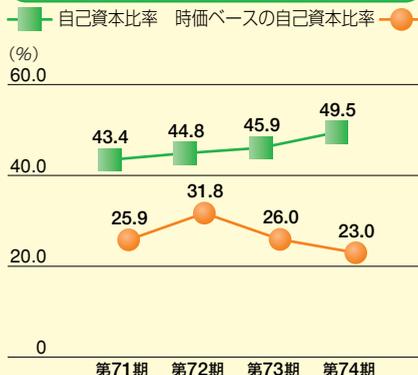
## 連結当期純利益／連結1株当たり当期純利益



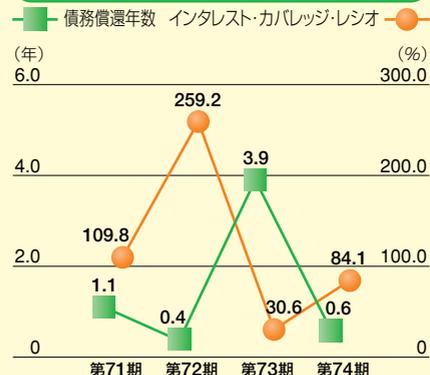
## 連結総資産／連結純資産



## 自己資本比率／時価ベースの自己資本比率



## 債務償還年数／インタレスト・カバレッジ・レシオ



上記指標の算定根拠は以下のとおりです。

自己資本比率＝自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率＝株式時価総額／総資産

・いずれも連結ベースの財務数値により計算している。

・株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式総数（自己株式数控除後）により算出している。

・キャッシュフローは営業キャッシュ・フローを利用している。有利子負債は貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としている。

債務償還年数＝有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ＝営業キャッシュ・フロー／利払い

第72期(平成17年度)から始まった3か年中期経営計画(第一次中期経営計画)と第75期(平成20年度)から始まる3か年中期経営計画(第二次中期経営計画)の取り組みについて、お知らせします。

### 第一次中期経営計画について

**1 対象期間** 第72期(平成17年度)～第74期(平成19年度)

#### 2 第一次中計の狙い

- (1) フクビグループは「開発型のメーカー」を志向する基本方針を明示
- (2) 事業内容の見直し、利益率改善・向上、事業基盤整備、管理水準・コンプライアンスの向上に注力し、バランスのとれた発展を目指す
- (3) 開発型メーカーとして発展・飛躍する準備期間として位置づける
- (4) 収益目標としてROS(売上高経常利益率)7%を目指す

#### 3 実施状況

当社グループは基本方針に沿って戦略・方策を策定し、下記に関連する数々の課題に取り組みました。

- (1) 既存事業内容、事業基盤の強化ならびに再構築
- (2) フクビのバリュー・チェーン・マネジメント(FVCM)進展による事業の整流化
- (3) 事業体制見直しによる低コスト経営の促進
- (4) 内部統制・コンプライアンス体制の整備

課題の取り組みは計画以上に達成し、低コスト経営や事業基盤整備、内部統制体制構築などについては所期の成果をあげました。また、成果のバロメーターの一つである製商品や仕掛品の在庫水準も、著しく減少しました。また、利益率も向上しました。しかしながら、断続的・持続的な原材料価格高騰や74期以降の建築業界の急な需要減などの影響により、ROS7%の収益目標は達成できませんでした。

### 第二次中期経営計画について

第一次計画を継受して第二次中計を策定しました。真の開発型メーカーを目指してフクビ100年企業の礎を築きます。

**1 対象期間** 第75期(平成20年度)～第77期(平成22年度)

#### 2 第二次中計の基本理念と狙い

##### 企業理念

『独自の技術と絶対主義で未来を拓く開発型メーカー、フクビ』

##### 経営ビジョン/ 目指す企業像

住宅関連市場を主とする建築資材事業に軸足を置きながら、化学に立脚した新たな技術・素材・製商品・市場を探索・追求する開発型メーカー、付加価値志向型の企業を目指す。

##### 収益水準目標

ROS 7%

## 第二次中計の狙い ～重点項目

### ① フクビ絶対主義について

お客様の求める品質・スピード・コストを提供できる会社を目指します。主な内容としては、変種・変量オンデマンド生産体制の定着を基軸として、要素技術の充実、注力すべき商品の抽出、品質管理強化、品質保証業務の再構築などを図り、メーカーとしての企業価値の拡大を目指します。

### ② 開発型メーカーを目指す

中長期の商品開発ならびに技術開発体制を強化し、新しい商品、新しいテーマ、新しい分野の探索に注力します。他の企業との開発アライアンスなども取り入れ、柱となる新商品の開発、伸びる市場分野との関係強化を図ります。

## 第二次中計の狙い ～5つの基本戦略と具体的施策

### ① 既存事業における選択と集中

- 注力すべきコア製品・戦略製品の選定
- リフォーム事業の強化
- 関係会社との連携強化

### ② 絶対主義の具体化

- 変種変量オンデマンド生産体制の定着
- 品質管理・品質保証業務の強化
- 第二次FVCMの展開

### ③ ローコストオペレーション

- 商品購買業務の強化
- 基幹業務の標準化・システム化推進
- アウトソーシング促進

### ④ 中・長期開発体制の強化

- 中長期開発組織の新設
- 事業活動における開発営業シフト
- 他の企業との開発提携

### ⑤ 人材育成

- 人事ローテーションの促進
- 教育・スキル訓練の充実

## 第二次中計の数値計画

第二次中計終了時点でROS7%を見込める水準を目指します。

(単位:百万円)

項目		75期	76期	77期
		第二次中期経営計画		
売上	連結	48,897	50,812	52,922
	単体	42,282	43,755	45,365
経常利益	連結	1,828	2,600	3,410
	単体	1,077	1,713	2,410
ROS	連結	3.7%	5.1%	6.4%
	単体	2.5%	3.9%	5.3%

※一部、業績予想の数値と異なる場合がございます。  
※本数値の記載は、業績の達成を保証するものではありません。

## 建築資材

売上高全体480億11百万円のうち330億40百万円、69.8%を占めており、以下の部門によっています。

### ■外装建材

戸建住宅の耐久性や居住性能、デザイン性向上などのニーズを先取りして多様に展開しております。サイディング外壁を際立たせる窯業系装飾部材(セミック)や、塗装の要らない装飾材(コンパルソリー)は主力商品です。結露をふせぎ、建物の寿命を伸ばす透湿・防水シート(エアテックス)は、屋根用シートや開口部の漏水を防止する関連商品の新規投入により、さらなる成長が期待されます。

外装建材部門は住宅や各種建物の多様化に合わせて品揃えを充実するとともに、換気促進、耐震補強、気密・断熱向上、土台・床下の耐久性向上など、相互に関連する重要なニーズを掘り起こし、発展させております。



### ■内装建材

集合住宅やビルディング、業務用施設を中心に、戸建住宅を含む多様・多彩なニーズに対し、当社のコアである押出成形技術の粋をつくり、業界において確固たる地位を得ております。

浴室用天井・壁装材(バスパネル)は不燃タイプを含む充実した品揃えにより、高い評価を得ております。ビルディング内装工事の必需品である見切、コーナー材、ジョイナーなどについては伝統の強さに加え、リサイクル原料の活用など新たな技術と商品の開発に取り組んでいます。戸建住宅用の強制換気システム、床下断熱材や養生材なども着実に伸びております。



### ■床関連材

当社は床関連材として、床仕上材(クッションフロア、ソフトタイルなど)、乾式二重床システム(フリーフロアー)、OA関連床システムなどを提供しております。いずれも主力事業分野であり、今後も拡販に注力します。

床仕上材は優れたデザイン開発力、提案力により、有力な商業施設やチェーン店の指名を数多く得ております。フリーフロアーは当社がパイオニアであり、今後も商品力と提案力を強化します。OA関連床システムは品揃えの充実とコスト競争力強化に努めます。



建築資材  
69.8%

## 産業資材

当社は自動車、家電、住宅用設備機器、自動販売機、オフィス家具、窓サッシなど様々な産業分野の有力企業に、押出成形品の機能部材を納入しています。全売上高の17.7%を占めます。当社の技術力と企業の総合力を傾注し、頼られ信頼されるビジネス・パートナーとなるよう努めています。



産業資材  
16.2%

その他  
15.0%

## その他

アクリルセラミック化粧材(ケンジュール)はキッチンや出窓、受付などのカウンター材として最適の素材です。新製品(ハーフクリア)を投入して充実をはかります。また、反射防止フィルター(ハーツラスAR)は汚れや傷を防止し、水も油もはじく高透明・低反射パネルです。自動車用メーターパネル、携帯機器用液晶保護パネルなどに採用が増えております。

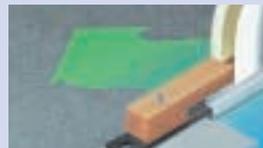


## システム建材

床下の防蟻、防湿を確保するアリダンSV-P工法、機能束工法、土台パッキン工法ならびにこれらを合体した床下セーフティUP保証制度は、当社の技術力と信用力が結実した画期的なシステム商品です。

また、木造住宅駆体サポート断熱システムを搭載したエアサイクルの家は、壁・外張断熱工法もしくは充填断熱型パネル工法による、人と建物の健康、省エネルギーを考え抜いた、フクビの誇るシステム商品です。

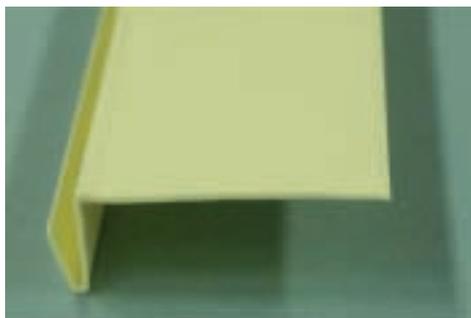
短時間のうちに室内を汚すことなく天井のリフォームができる天井システム、リフォジュールも、フクビの注力するシステム商品です。



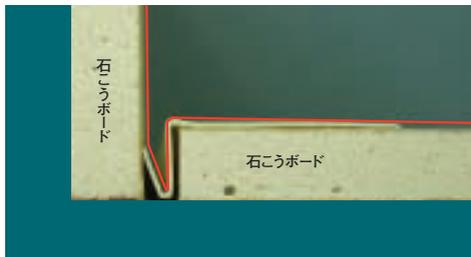
クロス亀裂やシワを防止する下地見切材

ジェイ エフ スリー エヌ

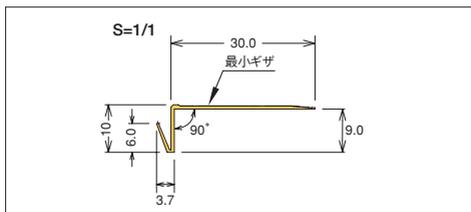
# フクロ クロスフリー JF3N



色:ミルクイーホワイト ※現物と印刷の色は多少異なります。



※クロスは赤線部になります。



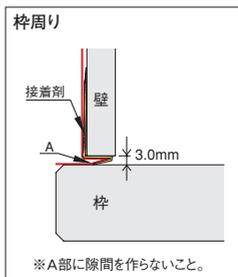
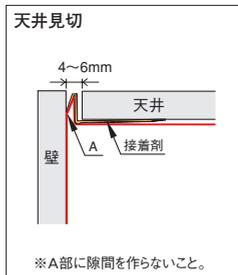
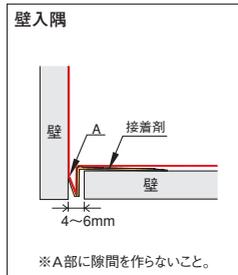
品名	規格	価格	梱包
クロスフリーJF3N	30×9×2,500mm	¥580/本	100本/ケース

■特徴

- 建物の微動が原因で起きるクロスの亀裂やシワを防止します。
- 壁クロスの入隅がスッキリラインに仕上がります。  
速く取り付けが出来ます。
- パテ処理も片側だけで良いので、作業が速くパテも半分で済みます。

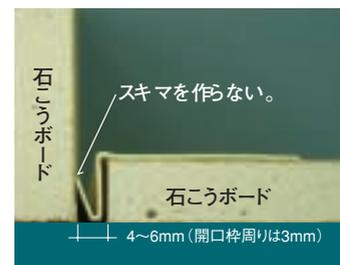


施工例



## ■ 施工について

- 下地(石こうボード)を施工する際、JF3Nを施工する所にスキマを開けて下さい。  
(スキマ寸法:入隅部4~6mm、開口枠周り3mm)
- JF3Nの固定は速乾タイプの接着剤を使用下さい。
- JF3Nの先端と壁の間に隙間を作らないように注意して下さい。クロス差込みの際、へらが隙間に入り作業に時間がかかる恐れがあります。
- 縦・横にJF3Nを使用するときは45度にカットして納めてください。
- クロスを貼る際は事前にクロスの余裕長を仮施工で確認して、スキマの奥まで確実にクロスを差し込んで下さい。



## ■ 留め加工



## ■ クロス差込み



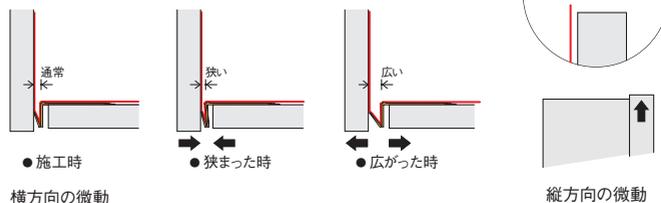
## ■ 仮施工で余長確認



施工例

## 壁微動と吸収のメカニズム

プラスチックの弾力が壁の微動を吸収し、クロスに亀裂やシワを作りません。



壁下地の動きが限界を超えるとA部の接着が剥がれ、クロスにシワを作れません。

# 要約財務諸表 Financial Statements

## ●連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	平成20年3月期 平成20年3月31日現在	平成19年3月期 平成19年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	32,088	35,330
固定資産	14,800	16,112
有形固定資産	9,227	9,931
無形固定資産	150	75
投資その他の資産	5,423	6,106
資産合計	46,889	51,442
(負債の部)		
流動負債	16,736	20,375
固定負債	3,232	2,904
負債合計	19,968	23,279
(純資産の部)		
株主資本	23,244	22,924
資本金	2,194	2,194
資本剰余金	1,511	1,511
利益剰余金	19,568	19,243
自己株式	△ 29	△ 24
評価・換算差額等	△ 25	677
その他有価証券評価差額金	△ 15	684
為替換算調整勘定	△ 10	△ 8
少数株主持分	3,702	4,563
純資産合計	26,921	28,164
負債及び純資産の部合計	46,889	51,442

## ●連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	平成20年3月期 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成19年3月期 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	48,011	52,860
売上原価	36,431	40,251
販売費及び一般管理費	10,080	10,264
営業利益	1,500	2,345
営業外収益	634	311
営業外費用	399	253
経常利益	1,734	2,403
特別利益	239	101
特別損失	492	149
税金等調整前当期純利益	1,481	2,354
法人税、住民税及び事業税	442	640
法人税等調整額	131	389
少数株主利益	313	449
当期純利益	596	876

## ●連結株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日～平成20年3月31日まで)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式
前連結会計年度末残高	2,194	1,511	19,243	△ 24
当連結会計期間中の変動額				
剰余金の配当			△ 271	
当期純利益			596	
自己株式の取得				△ 6
自己株式の処分		△ 0	△ 0	0
株主資本以外の項目の連結 会計期間中の変動額(純額)				
連結会計期間中の変動額合計	—	△ 0	325	△ 5
当連結会計期間末残高	2,194	1,511	19,568	△ 29

## ●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	平成20年3月期	平成19年3月期
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,765	577
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,784	△ 2,067
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,209	399
現金及び現金同等物に係る為替換算差額	△ 6	2
現金及び現金同等物の増減額	△ 233	△ 1,089
現金及び現金同等物期首残高	7,391	8,480
現金及び現金同等物期末残高	7,158	7,391

(単位:百万円)

株主資本 合計	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
22,924	684	△ 8	677	4,563	28,164
△ 271					△ 271
596					596
△ 6					△ 6
0					0
	△ 700	△ 2	△ 702	△ 860	△1,562
319	△ 700	△ 2	△ 702	△ 860	△1,243
23,244	△ 15	△ 10	△ 25	3,702	26,921

## ●個別貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	平成20年3月期	平成19年3月期
	平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	26,948	29,157
固定資産	13,202	13,660
有形固定資産	7,519	8,048
無形固定資産	69	23
投資その他の資産	5,614	5,590
資産合計	40,149	42,817
(負債の部)		
流動負債	15,671	18,120
固定負債	2,245	1,807
負債合計	17,917	19,927
(純資産の部)		
株主資本	22,248	22,206
資本金	2,194	2,194
資本剰余金	1,511	1,511
資本準備金	1,511	1,511
利益剰余金	18,572	18,525
利益準備金	465	465
その他利益剰余金	18,107	18,060
自己株式	△ 29	△ 24
評価・換算差額等	△ 15	684
その他有価証券評価差額金	△ 15	684
純資産合計	22,232	22,890
負債及び純資産の部合計	40,149	42,817

## ●個別損益計算書

(単位:百万円)

科 目	平成20年3月期	平成19年3月期
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	41,366	44,509
売上原価	31,820	34,534
販売費及び一般管理費	8,500	8,665
営業利益	1,046	1,310
営業外収益	354	304
営業外費用	327	243
経常利益	1,072	1,371
特別利益	139	1
特別損失	500	48
税引前当期純利益	711	1,325
法人税、住民税及び事業税	302	349
法人税等調整額	52	250
当期純利益	357	726

## ●事業所

本社	〒918-8585 福井市三十八社町33字66番地 TEL (0776) 38-8001 FAX (0776) 38-8080
東京支店	〒140-8516 東京都品川区大井1丁目23-3(フクビビル) TEL (03) 5742-6300 FAX (03) 5742-6316
札幌営業所	〒004-0041 札幌市厚別区大谷地東2丁目4-1 TEL (011) 896-7500 FAX (011) 896-5353
盛岡営業所	〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通り15番19号(盛岡フコク生命ビル4F) TEL (019) 654-7511 FAX (019) 654-7519
仙台営業所	〒984-0031 仙台市若林区六丁目字南97-3(e-環境仙台ビル3F) TEL (022) 287-3471 FAX (022) 287-3468
新潟営業所	〒950-0086 新潟市中央区花園2丁目1番16号(三和ビル2F) TEL (025) 241-7832 FAX (025) 243-5470
長野営業所	〒381-2203 長野市真島町川合335番地1(長野合同オフィス2F) TEL (026) 286-3689 FAX (026) 286-3702
宇都宮営業所	〒321-0953 宇都宮市東宿郷6丁目1-7(ビッグ・ビー東宿郷1F) TEL (028) 636-3521 FAX (028) 636-6310
東関東営業所	〒300-0847 茨城県土浦市卸町一丁目1番1号(関鉄つくばビル1F) TEL (029) 841-7611 FAX (029) 841-7622
北関東営業所	〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町3丁目305番地杉ビル・3 4F TEL (048) 661-0400 FAX (048) 661-0407
千葉営業所	〒263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目26番14号 TEL (043) 247-3651 FAX (043) 242-3577
西東京営業所	〒190-0023 東京都立川市柴崎町2-10-17(中島ビル1F) TEL (042) 529-3911 FAX (042) 524-9494
横浜営業所	〒231-0035 横浜市中区千歳町1-2(横浜THビル6F) TEL (045) 242-5100 FAX (045) 242-5451
大阪支店	〒564-0053 吹田市江の木町17-12(フクビビル) TEL (06) 6386-0800 FAX (06) 6338-3313
京都営業所	〒601-8131 京都市南区上鳥羽鴨田18(らんなんビル2F) TEL (075) 662-2315 FAX (075) 682-2943
岡山営業所	〒700-0985 岡山市厚生町3丁目1番15号(岡山商工会議所ビルディング8F) TEL (086) 232-0601 FAX (086) 232-0605
広島営業所	〒730-0041 広島市中区小町3番25号(住金物産広島ビル) TEL (082) 246-7211 FAX (082) 249-5802
高松営業所	〒760-0072 高松市花園町1丁目1番5号(花園ビル2F) TEL (087) 835-3721 FAX (087) 835-3094
福岡営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-13-21(エフビルウイング2F) TEL (092) 471-5800 FAX (092) 471-5737
鹿児島営業所	〒890-0053 鹿児島市中央町12番2号(明治安田生命鹿児島中央ビル4F) TEL (099) 259-0220 FAX (099) 251-4086
沖縄出張所	〒902-0075 那覇市宇国場1170-6 TEL (098) 855-6100 FAX (098) 855-6321
名古屋支店	〒451-0062 名古屋市西区花の木3丁目12番4号(フクビビル) TEL (052) 532-6660 FAX (052) 521-3307
静岡営業所	〒422-8066 静岡市駿河区泉町2-3(アズマビル1F) TEL (054) 288-3600 FAX (054) 288-3885

北陸営業所	〒918-8585 福井市三十八社町33字66番地 TEL (0776) 38-8010 FAX (0776) 38-8082
本社工場	〒918-8585 福井市三十八社町33字66番地 TEL (0776) 38-8034 FAX (0776) 38-8088
坂井工場	〒919-0506 福井県坂井市坂井町定旨1字1番地 TEL (0776) 66-8600 FAX (0776) 66-4641
三方工場	〒919-1303 福井県三方上中郡若狭町三方18号字菅原45番地 TEL (0770) 45-1260 FAX (0770) 45-1206
大阪工場	〒532-0022 大阪市淀川区野中南2丁目8番25号 TEL (06) 6302-1556 FAX (06) 6302-1559

## ●関係会社

### タイ フクビ株式会社

タイ国サムットプラーン県プレクサ村ム-4の499番地(バンブー工業団地)  
TEL (662) 709-4053 FAX (662) 324-0596

### FUKUUI USA, INC.

7631 ProgressCourt, CenterPoint70 Commerce Park Huber Heights, Ohio, 45424, USA  
TEL (937) 236-7288 FAX (937) 236-7289

### エアサイクルホームシステム株式会社

〒918-8585 福井市三十八社町33字66番地  
〒140-8516 東京都品川区大井1丁目23-3(フクビビル)  
TEL (03) 5709-3196 FAX (03) 5709-3266

### 株式会社メルツェン

〒004-0041 札幌市厚別区大谷地東2丁目4-1  
TEL (011) 896-5510 FAX (011) 896-5530

### リフォジュール株式会社

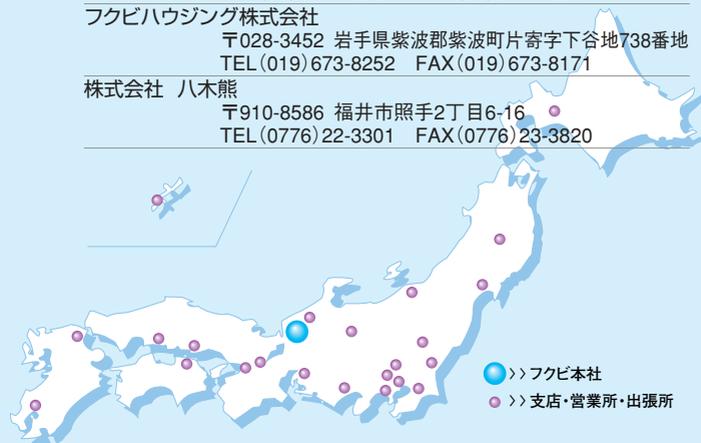
〒918-8585 福井市三十八社町33字66番地  
〒140-8516 東京都品川区大井1丁目23-3(フクビビル)  
TEL (03) 5742-6331 FAX (03) 5742-6337

### フクビハウジング株式会社

〒028-3452 岩手県紫波郡紫波町片寄字下谷地738番地  
TEL (019) 673-8252 FAX (019) 673-8171

### 株式会社 八木熊

〒910-8586 福井市照手2丁目6-16  
TEL (0776) 22-3301 FAX (0776) 23-3820



# 株式の状況 Status of Stocks

(平成20年3月31日現在)

## ●株式の状況

### 株式の総数

発行可能株式総数 63,000,000株

発行済株式の総数 20,637,550株  
(自己株式50,875株を除く)

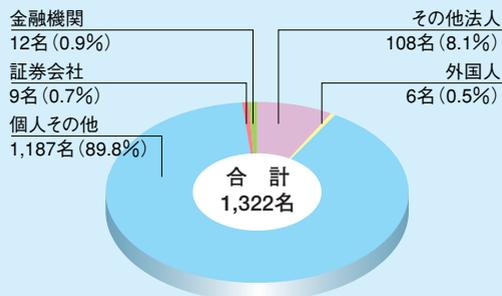
当期末現在の株主数 1,322名

### 大株主

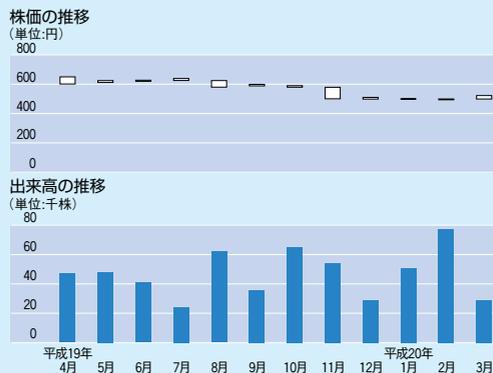
株主名	持株数
株式会社 八木熊	2,574 千株
長瀬産業株式会社	2,464
三井化学株式会社	2,002
日本トレーディング株式会社	983
株式会社 福井銀行	710
八木 誠一郎	631
株式会社 北陸銀行	625
昭和興産株式会社	570
八木 信二郎	541
住友化学株式会社	464

(注) 持株数は千株未満を四捨五入して表示しております。

## ●所有者別株主分布



## ●株価チャート



## ●ホームページのご紹介 <http://www.fukuvi.co.jp>



トップページ



IR情報



おすすめ製品情報

## ●会社の概要 (平成20年3月31日現在)

創 立	昭和28年5月25日(法人成立年月日 昭和22年10月31日)
資 本 金	21億9,390万円
従業員数	971名
U R L	<a href="http://www.fukuvi.co.jp">http://www.fukuvi.co.jp</a>

## ●主要な事業品目

建 築 資 材	
外 装 建 材	セミックス(窯業系不燃外装材)、コンパルソリー(耐候性樹脂製外装材)、左官定木、ダブルライト(型枠)、換気材、スーパーエアテックス(透湿防水シート)、土台パッキン、エクラート(FRP製外装装飾材)
内 装 建 材	廻り縁、巾木、バスパネル(浴室天井材)、見切、内装下地材、点検口枠、フィッティングシリーズ(集合住宅用造作部材)、養生材、サウンドレスシステム(防音遮音材)、フクフォーム(断熱材)
床 関 連 材	ソフトタイル、天然石タイル、木複合タイル、耐熱耐汚染性タイル、クッションフロア、フリーフロアー(集合住宅用・スポーツ施設用二重床システム)、OA床関連システム、床暖房システム、機能束(ブラ束、鋼製束)
システム建材	エアサイクルシステム、リフォジュール(リフォーム天井システム)、アリダン工法(防蟻工法)
産 業 資 材	
樹脂サッシ	窓枠、浴室用ドア
産 業 機 器	家電製品部材、家具木工部材、住宅設備部材、機器部材、車両部材、包装資材、農業土木用資材
そ の 他	
そ の 他	ケンジュール(人工大理石)、ハーツラスAR(反射防止フィルター)、ナルホット(加熱加温容器)

## ●役 員 (平成20年3月31日現在)

取締役社長 執行役員(代表取締役)	八 木 誠一郎	エアサイクルホームシステム株式会社代表取締役会長 フクビハウジング株式会社代表取締役会長 リフォジュール株式会社代表取締役会長 株式会社メルツエン代表取締役会長
取締役 専務執行役員(代表取締役)	望 月 功	
取締役 常務執行役員(社長室長)	五十嵐 紘	
取 締 役	長 瀬 洋	長瀬産業株式会社代表取締役社長兼執行役員
取 締 役	桑 原 信 隆	三井化学ポリウレタン株式会社代表取締役社長
取 締 役	藤 村 俊 夫	日本トレーディング株式会社代表取締役社長
取 締 役	小 野 光 太 郎	ローヤル電機株式会社取締役会長 日本マイヤー株式会社代表取締役最高顧問 ワシマイヤー株式会社代表取締役会長 日本BBS株式会社代表取締役会長 株式会社アサヒオプティカル代表取締役会長 ワシ興産株式会社代表取締役社長 小野ホールディングス株式会社代表取締役社長
取締役執行役員(品質保証本部長)	吉 村 利 栄	
取締役執行役員(内部監査室長)	田 中 晴 雄	
取締役執行役員(東京支店長)	有 馬 進	エアサイクルホームシステム株式会社代表取締役社長
取締役執行役員(管理本部長)	大 畑 忠	
取締役執行役員(生産技術本部長)	上 田 善 規	
取締役執行役員(開発本部長)	木 瀬 和 彦	
取 締 役(相 談 役)	八 木 熊 吉	FUKUVI USA, INC.代表取締役社長
常 勤 監 査 役	河 口 繁	
監 査 役	笛 吹 文 彦	
監 査 役	山 川 隆 義	

## 株 主 メ モ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基 準 日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公 告 方 法	電子公告により当社ホームページに掲載する。 <a href="http://www.fukuvi.co.jp/">http://www.fukuvi.co.jp/</a>
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス

同事務取扱場所	〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部
(各種お問合せ)	電 話 0120-255-100 ※株式関係のお手続用紙のご請求は次の電話番号 およびインターネットで24時間承っております。 手続用紙請求電話 0120-351-465 インターネットホームページ <a href="http://www.daiko-sb.co.jp">http://www.daiko-sb.co.jp</a>
同 取 次 所	株式会社だいこう証券ビジネス 各支社
上場証券取引所	大阪市場第2部・名古屋市場第2部

独自の技術で未来をひらく



この事業報告書は、環境に配慮し、大豆インキを使用しております。